

## 重点戦略プロジェクトの検証

## 1 推進状況

No.	プロジェクト名	推進状況
1	安心のまち・暮らし「住まいる北海道」プロジェクト	各種の取り組みを進めてきているが、数値目標の2つ「合計特殊出生率」「できれば今と同じ市町村に住んでいたいと考える人の割合」は、ほぼ横ばいで推移。
2	北のめぐみ「資源・ひと・経済好循環」創出プロジェクト	数値目標の「製造業の付加価値生産性」については、石油製品・石炭製品製造業などの一部の業種の減少の影響を受け、目標値と現状値に差があるものの、道が重点的に集積に取り組んでいる自動車産業などの付加価値生産性は、増加傾向にある。
3	未来を拓く「攻めの農・林・水産業」確立プロジェクト	一次産業の振興に係る取組については、各般の施策の効果が表れており、これらの取組もベースに、道産食品輸出額も平成30年に過去最高額となった。
4	輝く「アジアの HOKKAIDO」創造プロジェクト	2つの数値目標の目標値と現状値には差があるものの、着実に進捗が見られ、プロジェクトの効果が表れている。
5	多様な交流・連携と「北海道型地域自律圏」形成プロジェクト	本プロジェクトは、各施策推進のインフラとしての機能。多様な交流・連携が進められ、数値目標をほぼ達成している状況。

## 2 数値目標の進捗と要因分析

No.	数値目標	基準値	目標値	実績値(直近)	要因分析
		年度	年度	進捗率	
1	合計特殊出生率	1.27	全国水準	1.27	H27に一時上昇したものの、H30は基準値と同数。依然として全国水準との乖離が発生。
		H26	R1	89.4%	
1	「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と考える人の割合	76.2	増	75.8	基準値から大幅な変動はない。また、圏域、年齢別などでも大きな差は見られない。
		H26	R1	99.5%	
2	製造業の付加価値生産性(万円)	931	1,280	965	付加価値額の大きなウエイトを占める石油・石炭製品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業の減少などから、道内製造業全体の付加価値生産性は900万円台後半で推移している。一方、金属製品製造業や道が重点的に集積に取り組む輸送用機械器具製造業(自動車産業)などは、増加傾向にある。
		H25	R1	75.4%	
3 4	道産食品輸出額(億円)	663	1,000	774	一次産品の生産回復や品目多様化、販路拡大など取組効果によりH30に過去最高額。
		H26	H30	77.4%	
4	外国人観光客数(万人)	154	500	279	対象国・地域の市場ニーズに応じた戦略的宣伝誘致活動などのほか、国際線新規就航や増便などの効果により増加傾向で推移。
		H26	R2	55.8%	
5	広域連携制度に取り組む地域数	12	25	24	地域での広域的な連携を持続的に支援してきた結果、各地域において効率的、効果的な広域連携が図られている。
		H26	R1	96.0%	

## 3 今後の主な課題

No.	主な課題
1	暮らしの質を高めることに着目したプロジェクトとして、結婚・妊娠・出産・子育てのライフステージに応じた支援や移住促進など各般の取組を推進してきたが、数値目標の達成には至っていない。一方で、短期的な成果を得にくいプロジェクトでもあることから、取組を個別に点検しながらも、継続的に進めていく必要がある。
2	域内循環で「価値」を高めるプロジェクトとして、ものづくり産業の振興や女性・若者等の創業サポートなどの取組を進めているが、全国に比べ製造業の割合が低く、創業も少ない状況にあることから、今後も継続的に進めていく必要がある。
3	基幹産業の「成長力」を高めるプロジェクトとして、農業産出額の増加など着実に成果をあげているが、一次産業の労働力不足は引き続き課題として存在しており、担い手確保の取組とともに、先端技術を活用し、労働力不足を補完し、生産性を高める取組を進める必要がある。
4	域外からの「稼ぐ力」を高めるプロジェクトであり、HOKKAIDO ブランドの発信、輸出拡大、観光受け入れ体制の拡充等着実に成果をあげているが、より高い目標を設定(道産食品輸出額:1,500億円<R5>、外国人観光客:500万人<R2>※H29に300万人から500万人に見直し)しており、海外の活力を取り込むチャンス(ウポポイ開設、東京オリンピック・パラリンピックなど)も活用しながら、取組を加速化する必要がある。
5	人や地域の結びつきを高めるプロジェクトであり、自治体間連携、道外都市との連携等、本道の特性に応じた多様な連携を展開している。これらの取組は、北海道創生の基盤であることから、施策の効果的・効率的な展開を念頭に、目的に応じた連携を引き続き進める必要がある。

